



松陰読本・手引き書

吉田松陰の生涯と業績

(頒布価格 一,〇〇〇円 平成二十九年一月三十一日 発行)

本書の構成

- 第一章 松陰の幼年時代
- 第二章 御前講義
- 第三章 松陰の修業
- 第四章 海外渡航の失敗
- 第五章 野山獄
- 第六章 幽囚室
- 第七章 松下村塾
- 第八章 なみだ松
- 第九章 松陰の最期



松陰読本・手引き書

吉田松陰の生涯と業績

松陰読本・手引き書の構成

そこで、どこの場面でどんな資料があれば適切な指導が出来るかを考え、『松陰読本』の編集方針に準じ、第一章から第九章までに必要な資料を収集し、注釈や解説等を交え、『松陰読本・手引き書』を作成することにした。

松陰読本・手引き書の活用について

三十歳の若さで処刑された吉田松陰の生涯と業績について、わかりやすく書いたのがこの手引き書である。この手引き書を活用することによって次のようなことが考えられる。

- 一、公務繁多でゆとりの少ない先生方が、「松陰読本」の内容を子ども達に指導する場合、事前にこの手引き書を一読すれば正しく指導できる。
- 二、学校で学んだ子ども達が、家庭で松陰の話をする場合、保護者の方が手引き書を一読すれば、その話の補足や誤りの是正が出来る、楽しい団欒となる。

三、萩市には松陰に関わる史跡があり、ガイドが現在活躍しているが、ガイドの方々が手引き書を活用することによって観光客に松陰の生き様を正しく伝えることが出来る。

四、教師や保護者から話を聞いた子どもたちが、吉田松陰を誇りに思うと同時に、自分の生活を見直し、将来に対し希望や志を持つようになる。

五、幕末から明治にかけて活躍した人材を育てたのが吉田松陰である。多くの人々が松陰の人間性や志、門下生に対する指導の在り方等をこの手引き書で学んでほしい。

執筆：公益財団法人松風会

理事 弘長純忠

松陰読本とは

郷土の偉人吉田松陰の生涯とその業績を後世に伝え、現在に生かすように、明倫小学校の「松陰読本」を原型にして昭和五十五年に萩市が編纂し直した。

松陰読本の指導について

教科の場合、指導書というものがあ

るがあるが、『松陰読本』の場合はそのようなものはなく、指導する場合、「吉田松陰」に関する参考文献等を収集しなければならぬ。しかし、資料が膨大なため『松陰読本』の内容に即した適切な資料を収集するのに大変な時間と労力を要する。

